令和５年度 第２回 経営協議会報

総務部総務課

日　　時　　令和５年９月１４日（木）１３：３０～１５：５５（オンライン会議）

令和５年６月２０日開催の令和５年度 第１回 経営協議会議事要旨（案）について確認があり、了承された。

審 議 事 項

(1) 国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等について

木暮理事から、資料に基づき提案説明があった。

学外委員との間で以下のような質疑応答があった。

○琉球大学が意思決定にどの程度 IR 機能を使っているか。例えば、ビジョン計画の定量的な指標が IR データと紐づいて可視化されて、アクションの達成状況が判断できる形が理想ではないかと思う。

→学内のデータを分析し、データドリブンミーティングという形で議論が行われており、まだ扱っているデータは十分でないものの、今後の大学の経営方針等に役立てることができつつある。財務的なことは財務部においても分析を行っており、役員がデータに基づき判断しているが、大学としてシステマティックに行えていないことが課題と認識している。

○適正な教員とスペースの資源配分、教学マネジメントとガバナンスの一体化、授業科目の精選等が重要ではないか。

→授業科目の精選については、大きな課題だと感じており、学部改組の議論の中でも科目数の見直しを行った。今後も丁寧に議論しながら進めていき、RX や働き方改革を行う時に、見直しが必要と考えている。

○大学内のデータはバラバラで、そういったデータを成形して一元化したものがﾃﾞｰﾀカタログになっているのか。

→データカタログはどの部署にどんなデータがあるのか情報が見えるように整理したものとなっている。

→事務システムもそれぞれ別に作られており、そのデータを横に繋ぐのは容易なことではないが、RX の中で可能な部分から数年がかりで繋げていきたいと考えている。

○学長のトップセールスによる意見交換の実施について、現在も続いているか。

→経済同友会の懇親会などに最大限出席することや、時間の許す限り、学長だけでなく各理事で分担し、企業に出向いている。

○IR データが意思決定に活かされていないというのは、全国的な課題になっている。加えて、昨今の政府は、データを見える化するだけでなく、因果関係の分析まで求めている。

○大学インパクトランキングで SDG s について良い結果の原因について如何お考えか。

→他大学も SDGs に力を入れている中で、本学では SDGs 推進室や分野ごとのワーキンググループを設置し取組を行っており、相対的に頑張った結果の成果だと考えている。

審議の結果、原案のとおり了承された。

また、10 月末の公表に先立ち、委員からの意見・回答を整理し、近日中に書面審議を行うこととなった。

(2) 総合技術部の設置について

木暮理事から、資料に基づき提案説明があった。

学外委員との間で以下のような質疑応答があった。

○統合することによるメリット及び業務依頼システムと研究基盤統括システムとの関係について教えてほしい。

→技術職員の命令系統が固定化していたことにより、事務作業までもさせられるようなケースから解放され、自身の技術を活かした大学が必要な業務を実施できる。UR コアという共用化システムが研究基盤統括システムであり、業務依頼システムはそこに連携するためのシステムになる。

審議の結果、原案のとおり了承された。

(3) 国立大学法人琉球大学会計実施規程等の一部改正（案）について
大城理事から、資料に基づき提案説明があった。
学外委員から、経営協議会の審議事項であることを明確化してほしい旨の依頼があった。
審議の結果、原案のとおり了承された。

(4) 目的積立金の取り崩しについて
大城理事から、資料に基づき提案説明があった。
審議の結果、原案のとおり了承された。

報 告 事 項

(1) 令和４年度決算の承認について
大城理事から、資料に基づき報告があった。

(2) 琉球大学における令和６年度概算要求について
大城理事から、資料に基づき報告があった。

(3) 上原地区キャンパス移転の進捗状況について
大屋理事から、資料に基づき報告があった。

懇 談 事 項
「琉大トランスフォーメーション（RX）」の取組について
岡崎副理事から、本学の RX に関する取組について報告があった。

報告を受けて、以下のような懇談があった。
○これまでの取組はサプライサイド側が中心となっているので、学生のスマートフォンにアプリを入れて、授業の出席状況や大学の働きかけへのレスポンスについて収集するなどＣＲＭの観点に留意してはどうか。
→新年度の入学生からは、学生証をスマホアプリ化し、インターフェースの一元化とコミュニケーションの円滑化を図っていく。
○現場レベルでデジタイゼーションを進めて、ＲＸ賞表彰、合言葉なども非常に良い取り組みだと感じているが、次のステップへのチャレンジ、データをどのように他の業務プロセスと組み合わせて更なる効率化を目指す必要があると感じる。
○何をすべきかを明確化し、そこに予算をつけ確実に実行できるような体制も必要ではないか。
→予算が限られている中、わずかではあるが 100 万円単位で不可欠な事業については予算措置を行い、最大限努力していく。
○沖縄全体の病院の取組の集計状況は、外部からもアクセスできるか、それとも大学の内部情報か。
→国立がん研究センターや沖縄県のＨＰで誰でもアクセス可能な情報となっている。今回はＢＩツールを使ってより多角的に分かりやすい形に可視化が可能となった。
○ＲＸ学長賞については、名誉だけなのか、賞状だけなのか、インセンティブもあるのか。
→いろいろ検討した結果、賞状とは別に副賞として、県内で使用できる商品券をつけることにした。表彰式には多数の出席予定があるので、そこで意気を高めていくのが表彰式の趣旨と考えている。
○現在からステージ３まで描かれているが、今現在ステージ１のどこにいて、ステージ２でどのような姿になって、ステージ３ではどういう姿に変わるということが、ある程度言葉でも見えると、変わった実感が得られると考える。
○最終的にステージ３になったときに、定性的・定量的にＫＰＩを設定して、どういった効

率化が図られたのか、時系列で明確にできるとよりよいのではないか。

最後に議長から、コロナの状況を見ながら、可能であれば１２月２２日の経営協議会はハイブリッド形式で実施したいとのアナウンスがあった。